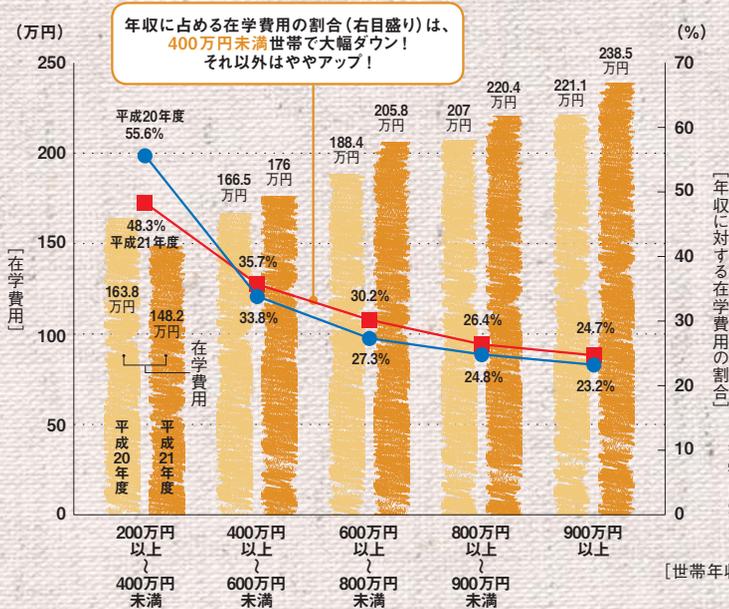


子どもの教育費にも不況の影響がジワリ……

親子で考える 進学マネープラン

それでも
希望を
かなえて
あげたい!

● 在学費用はどのくらいの負担？



**家計が厳しくなるなか
進学費用は大丈夫ですか？**

かつては「家計の聖域」と言われていた教育費。わが子の将来のためには、多少ムリをしても進学させたいという親心を反映して、教育費は年々上昇してきました。しかし、長引く不況の影響で、親のムリにも限界が見え始めています。

上のグラフを見てもわかるように、平成20年度と平成21年度の在学費用(学校教育費+家庭教育費)を比べると、年収400万円以上の世帯では相

厳しい経済環境のなかで、子どもの教育費が家計を圧迫し続けています。今後訪れる高校卒業後の進学費用についても、場合によっては家計に大きな打撃を与えたり、子どもの将来を左右したりすることが……。早めに対策を立てて乗り切りましょう

構成／インタビュー 取材文／笠原路子、インタビュー

変わらず上昇傾向がうかがえます。しかし、年収400万円未満の世帯では、わずか1年で約16万円も在学費用がダウン。年収が少ないほど家計における教育費の割合は高くなるため、学費とはいえ減らざるを得ないことがわかります。

いくら親が頑張っても、収入には限界があります。わが家は進学させるためのお金が準備できそうなのか、考えてみたことはありますか？

「親はいい教育を受けさせることに目が行きすぎて、学費のことをきちんと考えていない傾向があります。例えば

私立大学理系では、諸雑費も含めると4年間で700万円近い費用が必要。入学前に慌てても、どうにかできる金額ではありません。高校入学直後から入念にプランを練っておかないと、大変なことになります」(ファイナンシャル・プランナー 山田静江さん)

進学資金を考えると、子どもとの話し合いも大切。進路によって学費はかなり違ううえ、場合によっては子ども自身に奨学金などで工面させる必要もあるからです。進学マネープランは親子で取り組まないと、解決できない時代といえるでしょう。

お話をうかがった お金の専門家

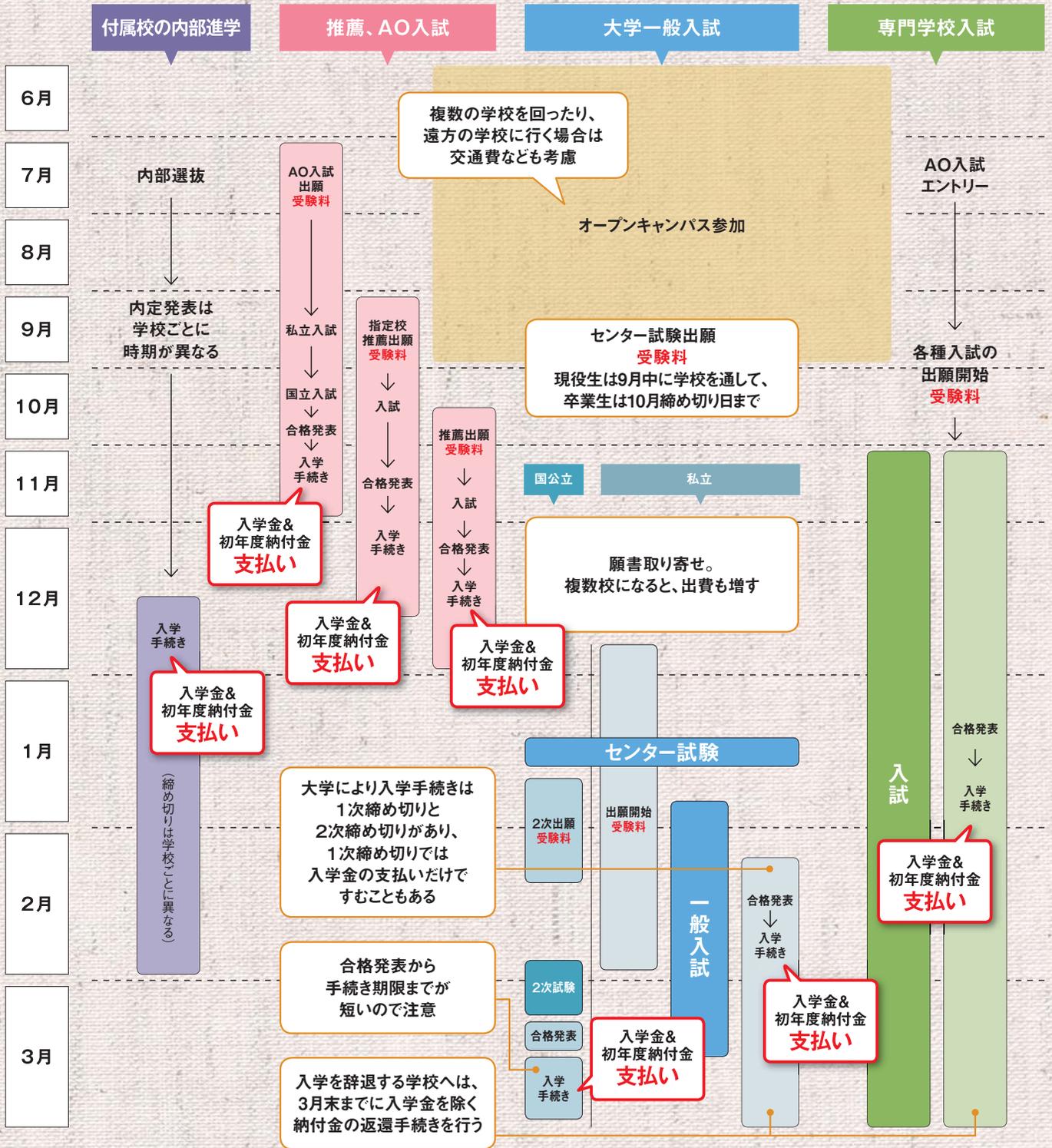


ファイナンシャル・プランナー (FP)
山田静江さん

FPとして各家庭のライフプランに合ったお金の使い方・貯め方を助言。雑誌やマネーサイトなどへの執筆・監修のほか、個人向け相談や各種セミナー講師としても活躍中。大学生2人の母でもあり、教育資金にも詳しい。



● 高校3年のスケジュールとお金の動き



遅くとも高3の夏までに
資金の用途をつけたい

進学費用を考える時期は、早いに越したことはありません。というのも、高校3年生の夏から、進学のための出費がかさんでくるからです。上のスケジュール表を見てください。多くの学校で、6月からオープンキャンパスが本格的にスタート。7月からはAO入試の出願が始まり、9月初旬には指定校推薦の出願があります。出願にはもちろん受験料が必要です。AO入試や指定校推薦は、10月くらいから合格発表があり、決まれば早々に入学金や前期授業料などを払い込むことに。初年度にかかる費用は、できれば高3の夏までに準備しておくほうが安心でしょう。

一般受験の場合、入学金などの振込みは2月・3月ですが、たいていは複数校を受験することになります。受験料だけでなく、願書の取り寄せ、振送料、交通費、遠方の場合は宿泊費などもかかるため、受験費用だけで30万〜40万円は覚悟しておかなければなりません。

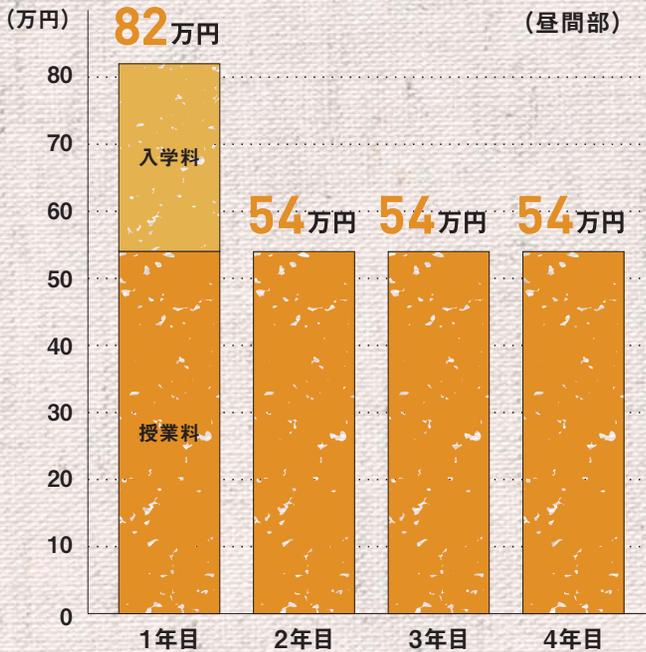
「入学前にもかなりのお金がかかるわけですから、いつ、どれだけかかるかを把握して、計画的に準備していきたいものです」(山田さん)

進学先によって学費などは大きく異なるため、次のページから進路別の費用をチャックしていきましょう。

国公立コース

進学資金の
現状
チェック

>> Total **244万円** [学校納付金の平均額・以下同]



全国ほぼ同額だが、 今後は変わる可能性も

国立大学の入学金は28万2000円、授業料は年53万5800円(平成21年度)。どの学部も同額で、医学部でも変わりません。現在は全国一律ですが、大学の法人化に伴い、今後は大学や学部ごとに一定の範囲内で変わる可能性が。これ以外に諸費用がかかりますが、各大学で異なるのでチェックを。公立大学もほぼ同じですが、大学によって多少違いがあり、地元住民だと安くなることも。

*私立大学は「平成20年度入学者に係る初年度学生納付金平均額の調査」(文部科学省)、専門学校は「平成21年度学生・生徒納付金調査結果」(東京都専修学校各種学校協会調査統計部)、国立大学は平成22年度の予定額(21年度と同じ)をもとに作成。

進学先によって親の負担は大違い！

学年ごとにかかる「費用」を知っておこう

他にも気になるこんな費用

- 浪人させたくないから、私立大2校分の入学金計60万円を支払ったのが、痛かったです。資金は祖父母の援助でまかない、入学後は学費以外のお金はいっさい出さないと言言。交通費や教科書代も塾講師のアルバイトで捻出させています。(理系2年・男子)
- 受験前の予備校代が予想以上の出費。学費は親が出していますが、定期代や小遣い、旅行費用などは、借りている奨学金から出させています。(文系3年・女子)
- 運動系の部活動なので、遠征費などが思った以上にかかっています。資金は、教育費以外の貯蓄から補って。(理系3年・男子)
- 遠方の大学を希望していましたので、オープンキャンパス参加や受験の際に、交通費やホテル代がかなりかかりました。6年制の大学なので、長期にわたって学費と仕送りが必要です。(理系3年・女子)

納付金のほか 私立大の入学金 も必要に

[ケース1] 国立理系4年生・男子の例

【初年度の支出】

出願&受験費用(4校受験) 約11万円
 入学金&初年度納付金の合計 90万円
 その他(教科書代、定期代、部活費、パソコン、滑り止め校入学金など) 75万円

初年度の合計 約176万円

【2年目以降の支出】(予定含む)

学校納付金・その他 約84万円(×3年)

4年間合計 約428万円

理系でバイトができず 毎月の支出も親が負担

1年浪人して2年度目の受験。現役のときは国立しか受験せずに落ちたので、2年目は滑り止めの私大も受験させました。国立の合格発表前に私大の入学金を30万円支払いました。入学後は勉強と部活動で忙しく、アルバイトをする時間がないので、教科書代、定期代、部活費などもすべて親が負担しています。

子どもの希望を確かめて かかる費用を確認する

進学先が大学か専門学校か、私立か国公立か、理系か文系かでも、かかる費用は大きく異なります。子どもの希望を確かめたら、入学金や授業料を調べ、学年ごとにかかるかもチェックすることが必要です。

もつとも学費が安いのは、やはり国立大学。学費は全国ほぼ共通で、理系・文系、学部による違いはありません。

「でも、国立大学を目指す人は、滑り止めとして私立大学も受験する人がほとんど。この場合、先に私立大学の入学金を支払わなければならないため、その費用も考えておく必要があります」(山田さん)

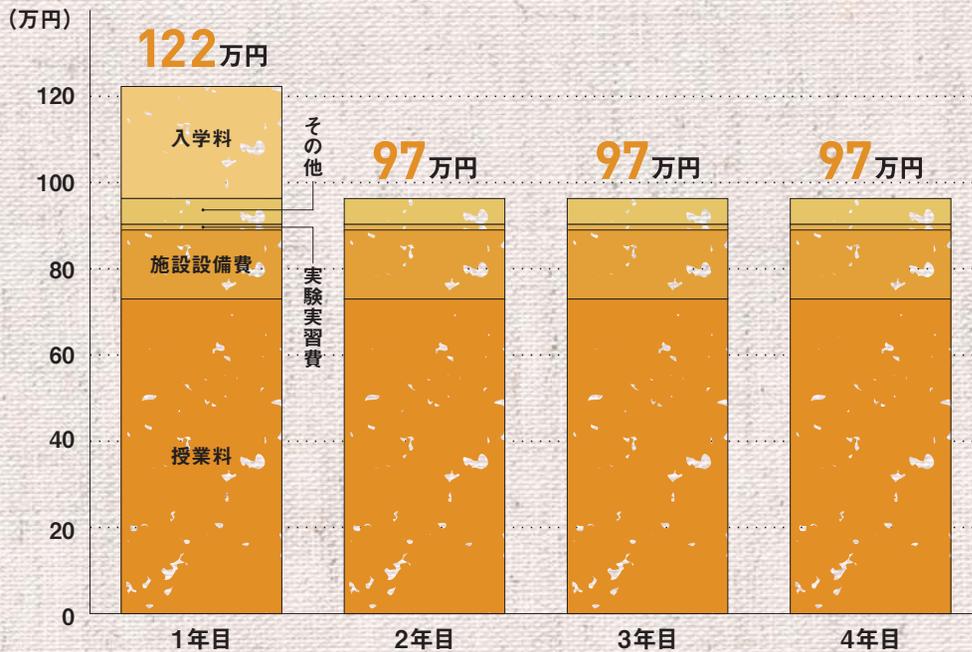
自宅外からの通学なら 仕送りなどの負担も増す

私立大学で比較的負担が軽いのは、文学部・教育学部・法学部・経済学部など文系の学部。ただ、これらの学部は



私立文系コース

>> Total **413**万円



授業料以外の寄付金なども覚悟して

私立大学文系の学校納付金の平均額は、入学金が25万8700円、授業料が年73万4052円。ほかに施設設備費(年15万5995円)、実験実習費(年1万2675円)、その他(寄付金など、年6万2940円)がかかります。学部による納付金額に大差はありませんが、神学・仏教系の授業料は比較的低め。ただ、大学ごとに見ると納付金額はさまざまで、寄付金などが高い大学も。事前によく調べて。

【ケース2】私立文系1年生・女子の例

【初年度の支出】

出願&受験費用(11校受験) 約32万円
 入学金&初年度納付金の合計 120万円
 その他(教科書代、定期代、部活費など) 20~30万円

初年度の合計 約180万円

【2年目以降の支出】(予定含む)

学校納付金・その他 約120万円(×3年)

4年間合計 **約540万円**

11校分の受験料が大きかった!

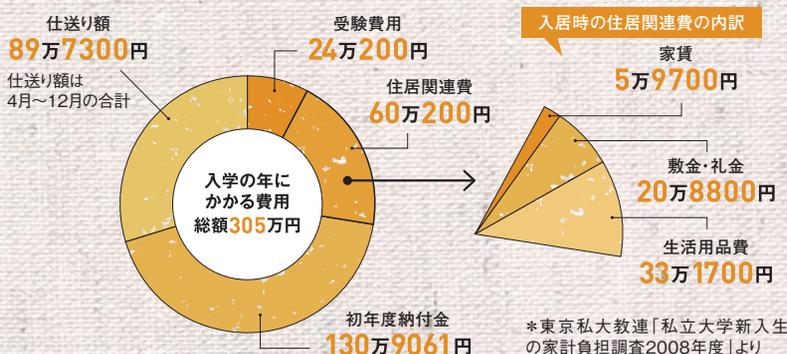
交通費や郵送費も意外と負担に

高校3年から勉強のスイッチが入って予備校に通い始め、この費用が月4万~10万円と負担が大きかったです。センター試験を含め、11校も受験し、その費用だけで30万円以上。出願のための書留速達代や、受験会場までの交通費も、意外にかかったという印象。学費は、こども保険と奨学金で捻出しています。

他にも気になるこんな費用

- 指定校推薦で入学したので、受験料は3万円のみ。塾は高校3年になってから、成績をアップさせたい英語のみ通いましたので、それほどかかりませんでした。ただし、大学入学後のパソコンや電子辞書の購入費は、予定外の支出。(1年・女子)
- 大学が遠く通学で疲れるというので、2年間だけ下宿。マンション代が年130万円ほどかかるため、私(母親)はフルタイムで働くようになりました。(2年・女子)
- 受験費用が35万円、学費は4年間で430万円かかる予定。学生保険、ゼミの旅行費などがかかるのが予想外でした。(3年・女子)
- 寄付金が1口20万円で、1回だけと思っていたら、1年間に3回も請求されてびっくり。(2年・女子)
- アメリカへの語学研修の費用が80万円かかり、パソコンも持参しなければならなかったでそれも購入。(4年・女子)

●自宅外通学者(私大)の準備費用と仕送り額(平均)

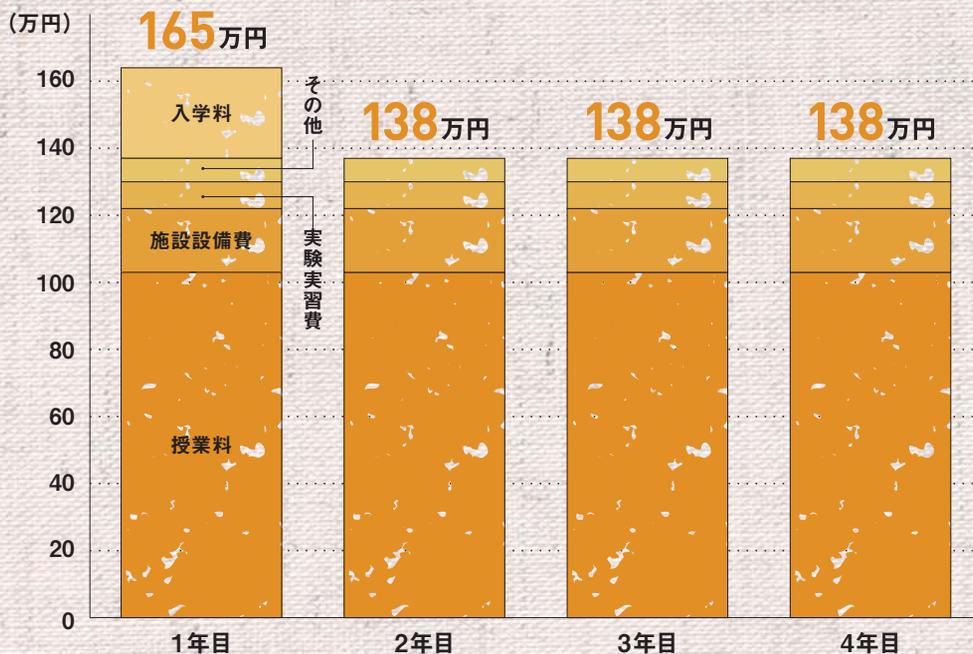


将来に備えて、入学後に別途、専門学校などに通う学生も少なくありません。こうしたダブルスクールの費用も親が負担しているケースも。

学校納付金のほかに、自宅外通学の場合は、その費用も考えましょう。東京私大教連の調査では、平成20年度の首都圏私大生の仕送り額(6月)は月9万5700円。これは過去最低額でしたが、地方から首都圏の学校に進むと、アパートの敷金・礼金や生活用品をそろえる費用のほか、月10万円近い仕送りを覚悟しなければなりません。

私立理系コース

>> Total **579**万円



設備費や実験実習費も文系より高め

私立大学理系の学校納付金の平均額は、入学金が27万5548円、授業料は年103万7073円。ただし、平均額の中には学費の高い薬学部も含まれているため、その他の学部はこれより低いことも。施設設備費(年19万1552円)や、実験実習費(年7万7832円)は文系より高め。専攻する学科によっても学費は異なるのでチェックしておきましょう。パソコン購入費などが必要な学科も多いです。

【ケース3】 私立理系3年生・男子の例

【初年度の支出】

| | |
|-------------------------|-------|
| 出願&受験費用(8校受験) | 約24万円 |
| 入学金&初年度納付金の合計 | 150万円 |
| その他 (教科書代、定期代、部活費など) | 15万円 |

初年度の合計 約**189**万円

【2年目以降の支出】(予定含む)

| | |
|-----------|-------------|
| 学校納付金・その他 | 約165万円(×3年) |
|-----------|-------------|

4年間合計 約**684**万円

授業料が
予想以上に
高いのが痛い

学資保険と貯蓄で 600万円を準備

パソコンが好きで、高校2年からIT系の学部を受験すると決めていました。塾は2校通いましたが、費用は何とか家計から捻出。大学の学費は、学資保険と貯蓄を充てています。大学の授業料の高さは予想外。定期代や小遣いも含めると、4年間で700万円程度。子どももアルバイトで小遣いを稼いでいます。

他にも気になるこんな費用

●さまざまなソフトが入ったパソコンの購入費がなんと25万円。せめてサークル費や交際費は、子どもにアルバイト代から出させようと思っていたが、親をあてにするばかり…。想定外でした。(3年・男子) ●入学金と授業料で4年間のトータルは520万円。初年度は貯蓄では不足で祖父母から借りたが、今後は奨学金の申請を検討中。(1年・男子) ●受験前に授業料以外の費用も詳しくチェック。第一志望の大学は、専用パソコンやその他の費用がかかるため、別の大学に入学させました。(3年・男子) ●学費は4年間で600万円でしたが、パソコンはレンタルでき、教科書代も予想よりかかりませんでした。(2年・男子) ●志望を文系から理系に変えたので、用意した貯蓄では不足がみ。学費のために現在毎月貯蓄額を増やしています。(2年・男子)

私立理系や芸術系では 予想外の出費も多い

私立の理系学部は、文系に比べるとかなり学費が高くなります。入学金はほぼ変わりませんが、授業料は理学部や工学部で年間24万円ほど高く、施設設備費や実験実習費も高くなっています。「学校指定のパソコンやソフトを購入しなければならず、予想外の出費があった」という声も。

さらに負担が大きいのには私立大芸術系学部で、授業料が理系より高いうえ、楽器代や画材代などの費用も必要。音楽系では「個人レッスンの費用が重荷」という人もいました。

専門学校も、年間費用はほぼ大学並み。理学療法や柔道整復など初年度納付金が平均180万円前後の学科もあります。医療系は修学期間が3年以上になることも多いので、学費・期間ともに確認しておきましょう。

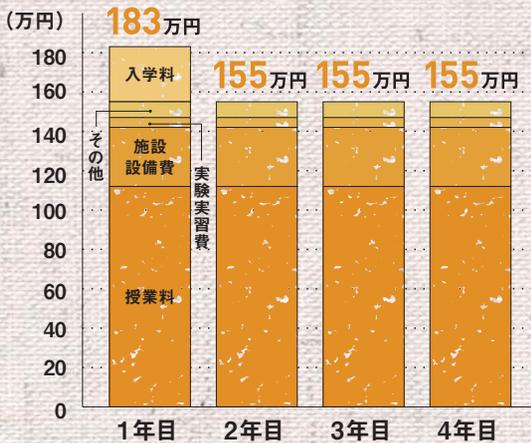
このほか私立薬学部の初年度納付金は平均約230万円。私立医学部・歯学部は寄附金も含め、初年度納付金が約890万円となっています。

定期代や活動費など 学生生活にかかる費用も

親子で進路を話し合うときは、学生生活にかかる費用についても話し合っておきたいものです。自宅から通う

私立芸術系コース

>> Total **648万円**



実技授業が多いので
すべてが高め

平均額は入学金が27万5855円、授業料が年112万5739円と理系より高め。施設設備費もかなり高く、年30万6461円。実験実習費も年4万6776円かかります。

月5万円の
奨学金も
利用

美術大学でも
パソコン購入が必須

高校3年から通った美大の予備校代が30万円。2校合格して両方とも入学金を支払いましたが、1校は授業料だけ返金。パソコン購入費21万円も、わかっていても痛かったです。

他にも気になるこんな費用

- 音楽系で夏休みなどに個人レッスンがあり、1レッスン1万円。(1年・女子)
- 学費だけで4年間で計850万円。ほかに楽器のメンテナンス、伴奏者への謝礼の費用も必要。(1年・女子)
- 授業で使う画材代が数万円単位。(1年・男子)
- コンサートやコンクールの参加費、衣装代などがかなり負担。(2年・女子)

[ケース4]

私立芸術系1年生・女子の例

[初年度の支出]

| | |
|------------------------------|-------|
| 出願&受験費用(4校受験) | 約20万円 |
| 入学金&初年度納付金の合計 | 200万円 |
| その他(教科書代、定期代、部活費、滑り止め校入学金など) | 55万円 |

初年度の合計

約**275万円**

[2年目以降の支出](予定含む)

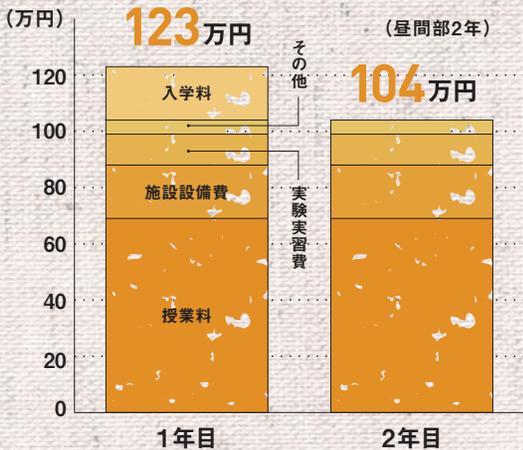
| | |
|-----------|-------------|
| 学校納付金・その他 | 約200万円(×3年) |
|-----------|-------------|

4年間合計

約**875万円**

専門学校コース

>> Total **227万円**



学科ごとに
学費や期間に
違いが

入学金19万1000円、授業料年68万8000円、施設設備費19万1000円、実験実習費11万円が平均額。学科によってかなり差があり、修学期間が3年以上の学科も。

研修など
学費外の支出が
かなり多い

[ケース5]
専門学校医療系1年生・女子の例

[初年度の支出]

| | |
|------------------------|-------|
| 出願&受験費用(1校受験) | 約2万円 |
| 入学金&初年度納付金の合計 | 150万円 |
| その他(教科書代、定期代、部活費、制服など) | 23万円 |

初年度の合計

約**175万円**

[2年目以降の支出](予定含む)

| | |
|-----------|-----------------|
| 学校納付金・その他 | 約120~150万円(×2年) |
|-----------|-----------------|

3年間合計

約**420~480万円**

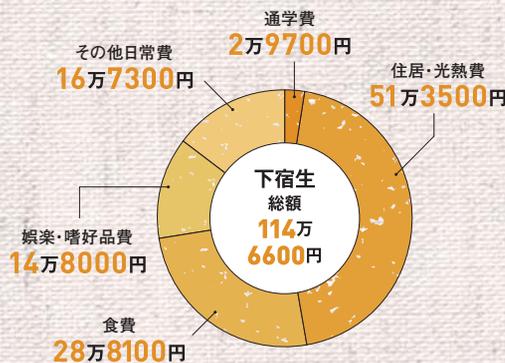
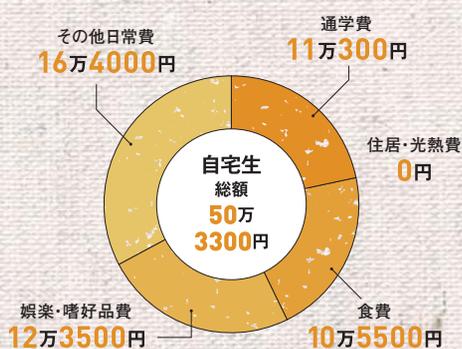
医療系なので納付金が
予想どおり高め

3年制の臨床検査技師の学校に入学。受験費用は少なめでしたが、初年度納付金は150万円。泊まりがけの研修などもあり、そのつど6万円くらいを現金で支払う必要があります。

他にも気になるこんな費用

- 看護学校なので、初年度の納付金は80万円と予想より少なめ。ただ、高校3年に通った看護専門の予備校代がなんと20万円。(1年・女子)
- ビジネス科の研修旅行や教科書代に年30万円。(2年・女子)
- 一人暮らしなので、初年度は家電や家具の購入代もかかり、別用途の貯蓄で補いました。(2年・女子)

●学生生活でかかる費用(年間平均)



なら、定期代や昼食代、サークルの活動費など。下宿をするなら、住居光熱費のほか、食費や日用品代もかかります。大学生になったら、これらの費用の一部を、アルバイトで子ども自身に負担させてもいいでしょう。受験間近になるとそれどころではなくなるので、高校1~2年のうちに一度話し合っておきましょう。

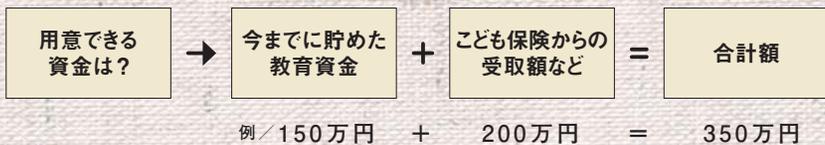
*日本学生支援機構「平成18年度学生生活調査(大学昼間部)」より

進学資金の準備方法

今から始めれば、まだ間に合う！

まずは「マネープラン」を立ててみよう

● 進学資金はこうして確保しよう！



20～23ページを参照

この金額を各年に振り分ける

左ページを参照

| | 必要資金 (支出予定) | 上の資金から | 家計から | 奨学金など |
|-------|----------------|--------|------|-------|
| 高校3年冬 | 例 / 40万円 | 40万円 | 0万円 | — |
| 大学1年 | 150万円 | 100万円 | 50万円 | — |
| 大学2年 | 100万円 | 70万円 | 0万円 | 30万円 |
| 大学3年 | 100万円 | 70万円 | 0万円 | 30万円 |
| 大学4年 | 100万円 | 70万円 | 0万円 | 30万円 |
| 合計 | 490万円 | 350万円 | 50万円 | 90万円 |

学校納付金に教科書、定期代などを加えた最低必要と思える資金

今の段階で用意できる資金を各年に振り分けてみる

月収やボーナスなど、その年の家計から捻出できる金額を考える

左の2つで不足する分のお金を、奨学金や教育ローンから補うことを検討

不安を解消するためにも具体的な計画作りが大切

進路が決まったら、その費用をどうやって準備すればいいか、マネープランを立ててみましょう。

「進学費用は高額ですが、一度に払うわけではありません。高校3年の後半から大学4年までの間に支払っていくわけですから、まずは年ごとに最低必要な費用を書き出してみましょう。そのうえで、どこからその資金を出すかを考えます」(山田さん)

家庭によって、子ども保険や学資保険に加入していたり、教育資金の貯蓄をしていることも。兄弟がいれば現在の貯蓄のすべてを一人の子に使うわけにはいかないため、その子に出せる金額を考えます。そして、年ごとにその資金を割り振ってみるのです(上図参照)。このとき、子ども保険は受け取り時期も確認してください。

また、高校まで授業料や塾代を月々の家計から出していたなら、大学入学後も家計から、ある程度の額は出せる

はず。その額も記入します。

上の例では、子ども保険と貯蓄の合計が350万円あり、家計から出せる資金は50万円の場合。家計から出せるが大学1年のときだけなのは、下の子どもの学費の準備などをしなければならぬ家庭によくあるケース。

このようにプランを立てて、どうしても足りない分は、子どもに奨学金を受けさせたり、教育ローンで補うことを検討しましょう。

奨学金の種類はさまざま、どれが有利かを比較して

奨学金でもっとも利用者が多いのは、国の制度である日本学生支援機構の奨学金。利息なしの第一種と利息付きの第二種があります。第一種は高校時代の成績や家計基準により、選考は厳しい状況。第一種を優先するにしても、第二種も含めて考えておくことが大切です。申し込みは進学後の学校でもできますが、振り込みが遅くなるため、入学後にすぐ受け取りたいな



最初は
これから検討

● 日本学生支援機構の奨学金

予約採用・4年制大学の場合

| | | |
|-------------|-------------------|--|
| 第一種奨学金(無利息) | 学力基準 | 高校1年～申し込み時までの成績の平均値が3.5以上 |
| | 家計基準 (4人家族の目安) | 給与所得者は収入916万円以下、 それ以外は所得430万円以下 |
| | 貸与月額 | 国公立の自宅通学は3万円、4万5000円から選択 国公立の自宅外通学は3万円、5万1000円から選択 私立の自宅通学は3万円、5万4000円から選択 私立の自宅外通学は3万円、6万4000円から選択 |

| | | |
|-------------|-------------------|--|
| 第二種奨学金(利息付) | 学力基準 | 高校の成績が平均水準以上や、特定の分野で特に優れた資質能力があると認められるなど |
| | 家計基準 (4人家族の目安) | 給与所得者は収入1254万円以下、 それ以外は所得719万円以下 |
| | 貸与月額 | 3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択。 12万円を選択した場合、私大医学・歯学・薬学・獣医学課程は増額が可能 |

貸与月額による返還例

| | | | | |
|--------|---------------------------------------|------------------------------------|----|---|
| 第一種奨学金 | 月6万4000円を4年間借りた場合 (私立大学・自宅外通学のケース) | 6万4000円×48ヵ月 =貸与総額 307万2000円 | >> | [返還例] 月1万4222円 ×216ヵ月(18年) 返還総額 307万2000円 |
|--------|---------------------------------------|------------------------------------|----|---|

| | | | | |
|--------|---------------|----------------------------|----|---|
| 第二種奨学金 | 月5万円を4年間借りた場合 | 5万円×48ヵ月 =貸与総額 240万円 | >> | [返還例] 月1万6769円 ×180ヵ月(15年) 返還総額 301万8568円 |
|--------|---------------|----------------------------|----|---|

| | | | | |
|--------|---------------|----------------------------|----|---|
| 第二種奨学金 | 月8万円を4年間借りた場合 | 8万円×48ヵ月 =貸与総額 384万円 | >> | [返還例] 月2万1531円 ×240ヵ月(20年) 返還総額 516万7586円 |
|--------|---------------|----------------------------|----|---|

- * 第二種の返還例は利率が上限の年3%だった場合。実際の利率は貸与終了時に決まる。
- * 在学採用(緊急・応急採用を含む)の場合、家計基準・貸与月額・返還期間が異なる。
- * 短大・専門学校の場合は第二種の貸与期間・総額は修業年数に準じ、それに応じた返還月額になる。

● 大学独自の奨学金制度の例

| 大学・奨学金名 | 特徴 |
|--|--|
| 東京学芸大学 [教職特待生制度] | 教員志望で教職特待生として適用されれば、在学4年間で計約500万円相当を支給。内訳として、入学料・授業料の全額免除、年額40万円の貸与(教職に就けば返還なし)、学生寮の寄宿料免除およびノートパソコン無償貸与など。毎年10人以内を選考 |
| 明治大学 [特別給費奨学金] [入学時貸費奨学金] | 特別給費奨学金は、返還の必要がなく、入試成績により選考。給付額は授業料相当額で、1年ごとに資格継続の審査がある。入学時貸費奨学金は、経済的な理由がある学生が対象で、初年度のみ授業料の1/2を貸与 |
| 日本大学 [特待生] [奨学金] | 日本大学特待生は学業成績・人物ともに優秀な2年次以上の学生に授業料1年分などを給付する。大学が指定の銀行と契約を結び低金利で利用できる奨学金付教育ローン(日本大学校友会奨学金制度)もある。その他、学部独自の奨学金制度も多数 |
| 東洋大学 [第1種奨学金] [第2種奨学金] [第3種奨学金] | 第1種は学部2～4年生で学業成績優秀者が対象で、年間30万円を給付。第2種は学部1～4年生で、経済的な理由がある学生を対象に、授業料の半額を給付。第3種は家計を支えた人が亡くなり、家計が急変した学生が対象で、授業料の半額を給付 |

● 教育ローン

| 名称 | おもな借入条件 | 融資額 | 金利(年)/返済期間 | 問い合わせ |
|-------------------------------------|--|------------------------------------|---|--|
| 国の教育ローン 教育一般貸付 | 子どもの人数と世帯所得によって制限があり、給与所得者は子ども2人で年収890万円以内、事業所得者は所得680万円以内など | 学生、生徒1人につき300万円以内 (2009年8月より拡大) | 固定2.65% 15年以内 在学中の元金据え置き可 | 日本政策金融公庫 教育ローン コールセンター TEL0570-008656 |
| 財形教育融資 | 勤務先で財形貯蓄を行っている人(一般財形、年金財形、住宅財形いずれも可) | 財形貯蓄残高の5倍以内で、10万円以上、450万円まで | 固定1.97% 10年以内 在学中は最長4年の元金据え置き可 | 勤務先または 雇用・能力開発機構 勤労者財産形成部 TEL045-683-1166 |
| ろうきんの教育ローン (中央ろうきんの場合) | 会社が団体会員になっている、または自宅や会社が関東8都県にある人。申込時20歳以上、最終返済時満71歳未満など | 団体会員1000万円以内、会員以外は500万円以内 | 団体会員は固定1.7% 会員以外は固定2.2% (別途保証料上乘せ) 10年以内 最長5年は元金据え置き可 | 中央労働金庫 お客様相談デスク TEL0120-86-6956 |
| 銀行の教育ローン | 銀行によって多少異なるが、申し込み時20歳以上で、前年度の税込み収入が200万～300万円以上、勤続年数1年以上など | 最高300万～500万円が一般的 | 変動金利が主流。ネットで申し込める銀行もある(三井住友銀行の場合、変動3.475%。返済期間1年～10年) | 各銀行 |
| ネット型の教育ローン (日立キャピタル『日立教育ローン』の場合) | 申込時20歳～60歳で完済時65歳以下、前年の年収300万円以上で、定収入があることなど。ネットで申込み、審査後に融資 | 30万～200万円 | 固定3.05% 元金据え置きの場合3.15% 返済期間は最長8年 | 日立キャピタル(株) http://www.netplaza.jp/education/ |

* 金利は2010年2月10日現在

ら、高校3年の春に学校を通して行う予約採用で申し込みを。
また、各大学にも独自の奨学金制度があります。最近では不況の影響か、返還の必要がない給付型の奨学金や特待生の制度を設ける大学も増えてきました。成績をあげて、こうした制度を利用することも考えては。
奨学金を借りるときに注意したいのは、卒業後に子ども自身が返済して

いくことを考えて、借りる額に配慮すること。子どもの将来の負担を重くしないように、どうしても親が負担できない分だけ、奨学金で補うようにしたいものです。
教育ローンは親が借りるもので、国や銀行などの教育ローンのほか、インターネットで申し込むローンもあります。勤務先で財形貯蓄をしている家庭なら、財形教育融資も検討してください。

親の工夫

進学資金は
こうすれば貯められる!

家計のやりくりと
高校無償化などで
浮いたお金を
貯蓄に回して

●FP山田さんが勧める
「高校3年間での貯蓄の増やし方」

目標

受験費用、入学金、初年度納付金(前期)の**150万円**を
高校3年間で、毎年約50万円ずつ貯めていく

A ボーナス中心の貯蓄プラン

月**1万円**×12回+ボーナス**20万円**×2回
||
計**52万円**×3年

B ボーナス少しの貯蓄プラン

月**3万円**×12回+ボーナス**7万円**×2回
||
計**50万円**×3年

C 月々だけで貯めるプラン

月**4万2000円**×12回
||
計**50万4000円**×3年

【解説】

受験費用と、合格が決まったらすぐ支払う入学金、初年度納付金(前期)は、最低でも親が準備する必要があります。進学資金がまだ貯まっていないなら、高校3年間で150万円を目標に。毎月の家計が厳しくボーナスに余裕があるならAプラン、両方もほどほどならBプラン、ボーナスがないならCプランがおすすめ(いずれも利息分は考慮せず)。こども保険や貯蓄があっても、足りなければできるだけ貯蓄を増やしましょう。

手持ち資金が心細ければ
少しでも貯蓄を増やしたい

これまで教育資金が思うように貯められなかった家庭や、手持ち資金が少ない家庭は、高校の3年間で少しでも貯蓄を増やしましょう。

「在学中にかかる費用は奨学金やアルバイトで、ある程度子どもに負担させるにしても、受験料や合格後に納める入学金・前期授業料だけは、親が用意する必要があります。その合計額の最低150万円くらいは、用意してほしいですね(山田さん)」

上の貯蓄プランなら、3年間で貯められます。わが家にあった貯蓄プランを選択してください。

子ども自身に工面させる
それも大事な勉強になる

飲食代やサークル活動費、洋服代、携帯電話代など、学生生活にはけっこうお金がかかります。ほとんどの学生は、こうした費用をアルバイトでまかな

プランに合わせて、もうひと工夫
親子で協力して資金を「捻出」しよう



バイトをしなくても大丈夫!

【ケース1】

私立情報科学系学部2年生
K・Kくん(男子)
一人暮らし

【毎月の収入】

特待生としての給付 10万円
(学費年間140万円は親が負担)
奨学金(日本学生支援機構より) 6万4000円

合計 16万4000円

【生活費の内訳】

家賃 6万円
食費(飲み代含む) 3万円
通信費 1万5000円
交通費 5000円
その他 1万~2万円
貯蓄 3万~4万円

特待生制度と奨学金で生活費を捻出

指定校推薦で合格した大学を、特待生を狙って再受験。現在は大学から毎月振り込まれる10万円と奨学金を一人暮らしの生活費にあて、アルバイトはほとんどしていません。学費は親が支払っていますが、入学時には県の奨学金、パソコン購入にはIT系学生用の奨学金を利用して、なるべく親に負担をかけないようにしています。

フリマで生活費を節約しています

【ケース3】

私立家政学部3年生
S・Yさん(女子)
一人暮らし

【毎月の収入】

親からの仕送り(家賃分) 6万6000円
アルバイト 3万円
奨学金(日本学生支援機構より) 8万円
(学費は親が負担)

合計 17万6000円

【生活費の内訳】

家賃 6万6000円
食費 3万円
光熱費・通信費(携帯は親が負担) 1万円
交通費 2万円
交際費・日用品など 2万円
帰省費・旅行費 2万円
その他 1万円

受験大学を絞って受験費用を減額

親には地元の大学を勧められましたが、私は東京の大学に行きたくて、親に土下座して許してもらいました。受験には交通費や宿泊費もかかるので、東京の大学は2校に絞って受験。初めは学生寮でしたが、今はアパートで家賃は親が負担。生活費は奨学金とアルバイトでまかない、自炊やフリマ利用で節約を心がけています。

子の工夫

在学中の生活費は自分で稼ぐ!

志望校のため自分なりに努力しました

【ケース2】

私立理工学部4年生
A・Yくん(男子)
一人暮らし

【毎月の収入】

アルバイト 4万円
奨学金(日本学生支援機構より) 10万円
(学費は親が負担)

合計 14万円

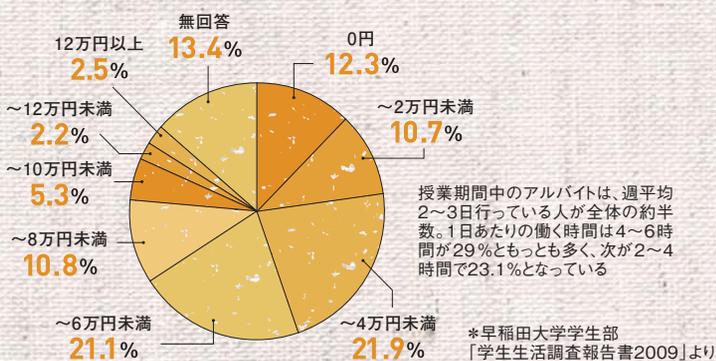
【生活費の内訳】

家賃 7万円
食費 2万円
通信費・光熱費 2万円
交通費 1万2000円
その他 1万~2万円

高校のバイト代は受験費用に

下宿が必要な東京の大学への進学を、なかなか親に言い出せないうまま、できるだけ自分で学費を稼ごうと、高校時代はアルバイトして貯蓄。受験料と入学金の一部は自分で支払いました。今は奨学金とアルバイトで生活していますが、サークル活動が忙しく、なかなかアルバイトができないのが悩み。でも、大学生活は充実しています。

●大学生の授業期間中のアルバイト収入(1カ月平均)



ついでに、アルバイトを通して社会に接することは、子どもにとっても貴重な経験。お金を稼ぐことの大変さを実感でき、将来のことを考える際にも役立ちます。最近では、就職の採用面接のときにアルバイト経験を見る企業も多くなっています。マネープランを考へるときにも、アルバイトによる収入を組み込んでいかまわらないでしょう。ただし、学業に差し支えない程度で、安定的に働けるアルバイト先を探すことが大切。どんなアルバイトがいいかなど、人生経験の長い親から適切なアドバイスをすることも、親子の交流を深めてくれます。

さっそく書き込んで
みてください

●書き込みシート

わが家なりのマネープラン

実際に書き出して

確認「しゅりゅう」

わが家の今後の
進学資金プラン

26ページのプランを参考に実現可能な金額を考えて

| | 貯蓄 目標額 | 貯蓄プラン | 合計 |
|------|-------------------------|------------------------|---------------------------|
| 高校1年 | <input type="text"/> 万円 | → <input type="text"/> | = <input type="text"/> 万円 |
| 高校2年 | <input type="text"/> 万円 | → <input type="text"/> | = <input type="text"/> 万円 |
| 高校3年 | <input type="text"/> 万円 | → <input type="text"/> | = <input type="text"/> 万円 |
| | | 3年間の合計 | <input type="text"/> 万円 |

ここに加える

| | | | | | | |
|-------------------------|---|-------------------------|---|-------------------------|---|-------------------------|
| 今までに貯めた 教育資金 | + | こども保険の 受取額など | + | 今後貯める 資金 | = | 用意できる 資金 |
| <input type="text"/> 万円 | | <input type="text"/> 万円 | | <input type="text"/> 万円 | | <input type="text"/> 万円 |

進学先に合わせて
学年や金額を
入れてください

| | 必要資金 (支出予定) | 用意できる 資金から | 家計 から | 奨学金 など |
|--------|-------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 高校3年冬 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |
| () 1年 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |
| () 2年 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |
| () 3年 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |
| () 4年 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |
| () 年 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |
| () 年 | <input type="text"/> 万円 | = <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 | + <input type="text"/> 万円 |

浪人したり、留年したりするほか、
大学院への進学などで
その年数だけ教育費が増えますが、
その際は改めて資金計画を練り直しましょう

24ページの表の説明と例を参考に考えてください



子どもの希望を尊重しつつも
家計にムリのないプランを考えましょう!

マネープランは、貯蓄プランと支出プランの2本立てで考えることがポイントです。兄弟がいる場合はそれぞれの進学資金を考慮しつつ、これから先に進学する子どものためのプランを立ててください。具体的な金額を書き出すことで目標が明確になり、やるべきことが見えてきます。子どもにとっても、教育費の重さがよくわかり、進学先について親子で話し合う材料になるでしょう。計画通りに行かない場合は途中で軌道修正してもいいので、受験までにとどきチェックし、見直していきましょう。(山田静江さん)

